

# 中国との架け橋を築き 結ぶ新鋭企業

## 中国とのパイプ作りが新たなビジネスチャンスを生む

(株)協和通商は福岡に本社を置き、中国・上海にも現地法人上海盛日貿易有限公司を置く新鋭企業だ。同社代表取締役・孫曉巍氏は福岡、上海を行き来し、精力的な日々を送る、新進の中国人女性経営者だ。同社は建材と電機機器を2本の柱として、通商貿易業務を行なっている。現在建材は、取引先に支えられながら堅調に推移している。あわせて最近では電機機器にも力を入れ始め、活況を呈している電機産業関連会社との取引も深くなっており、そのことにより中国との架け橋となっている。

「福岡の地場中小企業はもともと中国との関わりを深めていった方が良く、と考えています。東京、大阪の大手企業は中国に進出していますが、福岡の中堅企業も中国とのパイプ作りをするべきではないでしょうか。そのために、福岡でもっと交流会や会合、研究会を開催した方が良くと思います。そして日本で仕事をしている中国人、また中国人留学生を活用し、そのなかで中国との活路をひらく方法を検討してみてもいいでしょうか。どちらにしても、中国との接点を何らかの形で持ちたがっている企業はありますから、福岡経済界でも中国とのパイプ作りにつながるような応援、プログラムがあれば、もっと良い展開が生まれると考えています。」

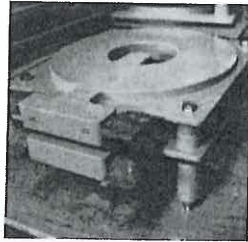
中国には様々なビジネスチャンスがある。しかし福岡の中堅企業は、それを見つけれず、かつそれをつかむ方法が判らず、みすみすチャンスを逃している。そのチャンスをつかむための仕組み作りが重要、と強調する孫社長だ。

## 必要なものは中国とのパートナーシップ

これまで中国に進出した企業は数多い。しかし、進出先で苦労している企業が多いことも事実だ。

「中国は社会主義国家で、法律も含め、政策は国の決定が全てで、それも猫の目のように変化します。ですから進出企業は、中国政府とその動きに精通していなければ、そしてそのシステムを充分に理解していなければ、必然的に壁にぶつかってしまいます。特に最近では、外資に対する政策の変化が激しく、かつ厳しくなっています。そのため迅速に対応策を打ち出すには、良いパートナーを見つける必要があると思います。過去に合併の形で進出した企業には大変な思いをしている企業が多いのですが、そのときの経営主力は40歳・50歳の経営者で、この人たちは古い中国の体質を経験していて、共産主義の元では企業を長い眼で見える資質は必要ではありませんでした。パートナーを騙して利益が上がり、と考えている人たちが多かったのです。しかし、今の中国経済をリードしている経営者の平均年齢は30歳代で、この人たちはそれなりの経営教育を受け、経験を持ち、グローバルスタンダードを身につけています。そのため、以前とは経済環境は大きく変化しています。独資、合併の出資の形を問わず、このような新しい経済人、すなわち良いパートナーと手を組むことが大事です。」

孫社長は本来、教育者になるべく日本に留学したが、就学中に通訳をするうちにエージェンツ的にビジネスの仲介をするようになり、そこでビジネスの面白さに引かれ、履修したのも経営学であったため、大学院を卒業と同時に、新規事業促進法を活用して同社を設立。無事に株式増資も果たし、現在に至っている。単なる経済交流に留まらず、もっと深いつながりを持つ機会創造の一翼を担いたい、と協力し合って共に進む、という同社の社是「協力・共進」に従って、その抱負と熱意を語る孫社長だ。



同社が取り扱う  
中国新幹線車両部品



プロフィール

株式会社協和通商  
代表取締役

**孫 曉巍**  
そん しゃおうえい

中国、吉林省吉林市に生まれる  
旧満州地域で日本との縁が深く、日本留学を決意  
1996年 来日 日本語学校入学  
1997年 九州産業大学入学 国際経営学を学ぶ  
2001年 同大学卒業後 共同経営企業を起業  
同時に同大学院に進学 経営研究  
で修士課程を履修  
2003年 大学院卒業後 (株)協和通商 設立  
2007年 九州大学ビジネススクール